

【静岡福祉文化を考える会】2024年度事業計画

活動テーマ：「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」

「静岡発 福祉文化の創造」を県域に発信して、本会は29年目の福祉文化実践活動に入る。

そして、節目である30年の歩みまで、あと一歩となった。

今こそ、「福祉文化の推進」が求められる時期であることを認識し、2020年(令和2年)以降今日まで、「ご近所福祉検証期」として活動を展開してきた。

引き続き、住民主体のご近所のささえあいをいかに構築できるか、そのためには、常に「見える化」「わかる化」した、語れる地域環境を働きかけていかなければならない。

改めて、本会の活動の原点を確認すると、「日本福祉文化学会」から、静岡県内で「第11回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受け、阪神淡路大震災発生から1年後(1996年3月)、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」を課題に「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」を研修テーマに掲げ、全国各地から400名余の参加者と熱く語り合った思いを形にして、「災害と福祉文化」を追求する「地方発福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として1996年9月に結成した。

結成(1996年9月)してこの28年間、「地方発 福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合」、「公開型地域総合型学習による理論と実践」、「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。

さらに、「第1の柱立て：啓発学習事業→静岡発(地方発)福祉文化の創造をめざして、県内各地の地域総合型啓発学習に学ぶ」、「第2の柱立て：調査研究事業→県民の協力により、一貫して、その時代の地域社会問題をテーマに調査研究活動に取り組み、その結果をその都度県民とともに、地域総合型学習により課題解決に向けた議論を深める」、「第3の柱立て：実践地区活動事業→広く県内各地の実践事例を共有し合い、地域診断のもとに、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開し、協働による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認する」の「3つの柱立て」をもとに、各年度の地域課題をテーマに活動を展開してきた。この28年間を考察すると、

■『草創期』(1996年度～2001年度の6年間)

*結成直後の活動は、模索しながらも、地域社会の課題をもとに「結婚」、「共働き」、「地域」、「家族」、「父親」、「ボランティア活動」等を議論し合った。

■『協働期』(2002年度～2007年度の6年間)

*日本福祉文化学会から、静岡県において「学会全国大会」の開催を強く要請され、県内外有志42名で実行委員会を立ち上げた。平成13年11月29日「学会全国大会静岡大会プレ大会」(参加者約300名)、翌平成14年11月30日・12月1日に、「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」(裾野市会場、全国から延べ約600名が参集)の開催を実現した。

この期は、更に、県内外の関係団体等との関係づくりに努めながら、「働く人の暮らし」、「生活圏域の検証」、「子どもを育む地域環境」、「団塊の世代」等を議論し合った。

■『実践融合期』(2008年度～2014年度の7年間)

*静岡県委託事業「一人でも安心して暮ら合う地域づくり事業」をもとに、高齢者等が地域で孤立することなく、安心して暮らし合えるための検証活動に取り組んだ。

■『共創社会実現期』(2015年度～2019年度の5年間)

*「生活圏域の地域づくり」、「ご近所の助け合い」、「地域ぐるみの居場所」、「子どもを育む地域」、「地域ぐるみの支え合いの仕組み」等の検証に取り組んだ。

■『ご近所福祉検証期』(2020年度～2023年度)

*これまでのプロセスから、2020年度は「つながるご近所の再構築—ご近所福祉の復活—」を活

動テーマに掲げ、その翌年度（2021年度）は、「地域を家庭化する支え合いの検証」そして、2022年度「ホッとする豊かな地域づくりを拓く一共生社会実現を探る」、2023年度「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”」に、それぞれ取り組んできた。

今年度（2024年度）は、2013年度（平成25年度）から、地域福祉教育教材の開発として取り組み、2015年度（平成27年度）「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生につなげたプロセスを基に、「活動テーマ：「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」を掲げ、引き続き、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動とともに、更に「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用の働きかけと、これまでの「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況を調査し、2021年度（令和3年度）作成した「かるた利用の手引き」に続き、今年度、新たに「活用事例集」の編集・発行を、協働関係の「焼津福祉文化共創研究会」とともに「“ご近所福祉”こそ福祉文化」を検証する。

1. 2023年度全体会（全体会&第1回公開型研修会）の開催

- 日時:2024年05月25日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」
- 内容:研修テーマ;「“ご近所福祉”これまでとこれからを語る」
 - (1) 基調報告:「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証する
 - (2) ワークショップ:「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証

2. 委員会の開催

- * 実務型委員会構成を基に、[代表]、[副代表・事務局長]、[会計]、[監事]、[委員]が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- * 原則、「公開型研修会」開催の前段に開催。
- * 広く会員や一般社会人にも参加を呼掛け、「公開型学習会」として位置付ける。
- * 必要に応じ、臨時の委員会を開催。
- * 2024年度の委員会開催は、以下の通りとする。
 - 第1（221）回:2024年05月25日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
 - 第2（222）回:2023年11月30日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
 - 第3（223）回:2024年02月22日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
 - 第4（224）回:2024年03月29日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

3. 研修活動

(1) 公開型研修会の開催

会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげるとともに、広く、市民に公開型研修会として参加を呼びかける。

■ 第1回

- 日時:2024年05月25日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」
- 内容:研修テーマ;「“ご近所福祉”これまでとこれからを語る」
 - (1)基調報告:「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証する
 - (2)ワークショップ:「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証

■ 第2回

- 日時:2025年02月22日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」
- 内容:研修テーマ;「“ご近所福祉”の見える化・わかる化を検証する」
 - ① 基調報告「ご近所福祉検証期の5年間を振り返る」

② 円卓トーク「私のご近所のこれからを描く」

(2) 「第 23 回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- 日時:2024 年 11 月 30 日 (土) 13:30~15:30
- 会場:静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」
- 内容:研修テーマ;「福祉文化の学び 23 年間の歩みから見えたもの」
 - ① 基調報告「“協働”による福祉文化の創造」
 - ② 円卓トーク「中学生から大人社会への 15 の提言を受けて、
これからの地域づくりを描く」

4. 調査研究活動

テーマ:『「若者発 ご近所福祉かるた」活用と“ご近所福祉”検証調査』の実施

①ねらい

「静岡福祉文化を考える会」は、この 28 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んできた。そして、調査分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 1997 年度 1. 「共働きに関する調査」
- 1998 年度 2. 「私たちにあって、地域とは何か—その 1—意識と実態調査」
- 1999 年度 3. 「私たちにあって、家族とは何か調査」
- 2000 年度 4. 「父親に関する調査」
- 2001 年度 5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002 年度 6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003 年度 7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004 年度 8. 「地域とは何か—その 2—意識と実態調査」
- 2005 年度 9. 「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 2006 年度 10. 「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 2007 年度 11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008 年度 12. 「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 2009 年度 14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2010 年度 15. 「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 2011 年度 16. 「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2012 年度 17. 「家族ってなにその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2013 年度 18. 「長寿者につながるホッとすご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2014 年度 19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2015 年度 20. 「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 2016 年度 21. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2017 年度 22. 「居場所ってなにその意識と実態調査」
- 2018 年度 23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(単純集計)
- 2019 年度 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 24. 「256 名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか?」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2020 年度 25. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2021 年度 26. 「福祉ってなに? 256 名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか」(さわやか福祉財団地域ささえあい基金助成事業及びあしたの日本

を創る協会助成事業)

- 2022年度 27. 「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」
- 2023年度 28. 「私にとって “ご近所” とは 中学生の意識と実態調査」
(静岡県社協ふれあい基金助成事業)

と、「28のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

通算29回目となる今年度は、2024年度の活動テーマ「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」に基づき、地域コミュニティへの住民の参加の希薄化傾向が伺える中、加えて、長引く、コロナ禍下で、地域活動がこれまで十分出来ない状況から、ここにきて、少しずつ地域環境に明るい兆しが伺えるようになった。

こうした社会の動きの中で、本会の28年間の活動において、これまで、平成20年度から平成26年までの7年間、県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」を通じて、高齢者の孤立・孤独防止事業に取り組み、中でも、2年間、延べ24回、243名の若者が、長寿者訪問型研修会で、高齢者から、ご近所のふれあい・ささえあいこそ重要な解決策であることを学び、約400の意見が報告された。

2015年度(平成27年度)県共同募金・広域福祉活動助成事業により、若者からの尊い意見を精査するため、「共創社会実現研究会」を設置し、ご近所福祉の議論を重ね、「若者発ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」で、世代や領域を超えてご近所を学ぶ教材として、「若者発ご近所福祉かるた」を誕生させた。

幼児から大人まで、世代を超えて、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として「見える化」「わかる化」の工夫をし、楽しみながら学び合い、安心して暮らしかう生活圏域づくりをめざすことができるように、5年間地域福祉教育教材として、広く県民に活用を呼び掛けた。その後、「ご近所福祉その意識と実態調査」の調査結果から、改めて、高齢者(長寿者)の社会参加、集まる居場所の活性化、学校教育と社会教育の融合による課題等が浮き彫りになり、2021年度(令和3年度)、再び、静岡県共同募金会助成事業「若者発ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」により、「若者発ご近所福祉かるたの増刷」(100セット)と、「かるた」の有効活用を目的に、「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」を作成した。

今日、児童福祉領域(学童保育)や、学校教育領域(特に、コミュニティスクール事業関連)をはじめ、世代間交流の領域、高齢者の教養研修の場、社会教育領域(地域講座)等、県内各地から、「かるた」提供の問い合わせがあり、約8年を経過した今年度、三度、赤い羽根共同募金助成事業により「若者発ご近所福祉かるた」の増刷(100セット 総計300セットになる)の運びとなった。更に、今年度は、「見える・わかるご近所福祉を学ぶ地域福祉教育教材」としての「かるた」を利用した、各種団体・グループ等から届いた「活用レポート」(活用報告)に、加えて、今年度改めて「活用状況調査」を実施し、回答いただいた尊い活用実績(報告)を考察して「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」として作成し、「かるた」の有効活用を働きかけるとともに、「ご近所福祉」をさらに推進することを目的に活動に取り組む。

②調査項目

a 基本属性(地域・領域・設置年数・地域との関わり) b かるたの活用目的(ニーズ別) c 活用会場 d 参加者層(人数) e 活用展開(時間帯・所要時間) f 参加者の反応 g ご近所福祉への思い h 活用所見(課題) の 8項目を検討。

詳細は、「共創社会実現研究会(調査部会)」を別に設けて具体的な協議をする。

③調査の展開

a 調査実施期間(5月~6月) b 集計期間(7月~8月), c 分析&考察(9月~10月)
d 公表(10月)を予定。

④対象 これまでに「かるた」を提供した地域、グループ、団体、施設等

⑤調査依頼/配布方法 郵送による

⑥地域の現状を把握するとともに、円滑な調査研究活動に取り組めるように「共創社会実現研究

会(調査部会)」を設置する。

5. 「共創社会実現研究会」開催(全8回)

■設置目的

今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあい、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。

加えて、長引く、厳しいコロナ禍下において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした制約された社会環境の中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、地域社会の現状を把握するとともに、計画に基づく「若者発 ご近所福祉かるた」による地域学習状況を把握し、「地域の支え合い」をまとめる調査の展開協議を深めるとともに、円滑な事業展開をする目的で設置する。

■構成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営する。

- 協力 これまで、本会及び焼津福祉文化共創研究会から、「若者発 ご近所福祉かるた」を提供してきた関係領域及び地域実践者等

■設置期間と研究会開催日

(1)設置期間 本事業活動期間(令和6年4月1日より令和7年3月31日まで)

(2)開催時期

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	4月 13日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識① 調査実施協議(調査実施要項・調査個票) 調査配布計画
第2回	5月 11日(土)18:30 北川原公会堂	地域の現状認識② 調査票配布状況 調査票回答状況①
第3回	5月 25日(土)10:00 静岡市清水区	地域の現状認識③ 調査票回答状況②
第4回	6月 8日(土)18:30 北川原公会堂	調査票回収状況③ 調査票集計作業① 協働の課題
第5回	7月 13日(土)18:30 北川原公会堂	調査票集計作業② 調査票考察作業① 活用事例集編集①
第6回	9月 14日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集編集②
第7回	11月 9日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集発行及び配布先検討
第8回	12月 14日(土)18:30 北川原公会堂	事業総括

■運営「静岡福祉文化を考える会」と「焼津福祉文化共創研究会」が協働で実施する。

6. 「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成

「若者発 ご近所福祉かるた」誕生(2015年度)から9年目を迎えて、県内の「ご近所のささえあい活動」(主に「かるた」配布先の活動)の実践地区への現地訪を通じて「地域総合型学習」として、幼児から大人まで、身近な地域における実践活動の場や行事の中で楽しみながら活用し、安心して暮し合う生活圏域づくりをめざす取り組みを検証する。

関係機関・団体との「協働」により、これまでに個人、地域実践者、施設・グループ・サロン等に配布・設置した「かるた」の活用状況を把握し、教育と福祉の融合を視点に「活用事例集」(仮称)を作成し、更なる「ご近所福祉」を推進する。

■仕様及び印刷業者 A4版 表紙及び裏表紙 カラー印刷 本文 カラーページ8P 白黒ページ32P 計40P 印刷業者: 「株式会社 セイコー社」

■作成過程

- (1)事業起案時期 令和6年4月
(2)活用状況調査期間 令和6年5月

- (3)「かるた」印刷期間 令和6年6月～7月 8月 納品
- (4)事例集編集期間 令和6年8月～9月
- (5)事例集印刷発注期間 令和6年10月末入稿 令和6年11月上旬 納品
- (6)公表 令和6年11月
- (7)配布 令和6年12月
- (8)配布先 「共創社会実現研究会」において協議の上決定する

7. 「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷

- * 取り札 カラー4/4色印刷 絵札 カラー4/1色印刷 100セット
- * 印刷業者は、すでに、製版型を有している「有限会社 シブヤ印刷芸社」
- * 配布については、県内の東部、中部、西部を均等に配布検討（希望のある市町社会福祉協議会中心）サロン活動・学童保育、さわやかクラブ（老人クラブ）、コミュニティ組織（実践地区）学校教育、社会教育、福祉施設・包括支援センター、地域実践者等を検討するが、細部は、「共創社会実現研究会」において協議の上決定する。

8. 広報・啓発活動

(1)「機関紙発行計画」に基づく『Our Life』の発行

- * 年4回、A4版、4ページ構成、上質紙印刷、200部発行
- * 「地方発福祉文化の創造」論議や実践活動を会員及び関係方面に具体駅に情報発信。
- * 各号共通記事:「編集後記」,「ご近所福祉コーナー」,「事務局日誌拝見」
 - 第152号(06/10)『29年目の福祉文化実践活動の方向性』
 - 第153号(10/10)『若者発 ご近所福祉かるた活用報告』
 - 第154号(12/20)『第23回セミナーを振り返る～福祉文化の学び～』
 - 第155号(03/20)『ご近所福祉検証 30年の節目に向けて』

(2)日本福祉文化学会 HP と本会ブログのリンクによる「地方発 福祉文化の創造」の発信

(3)「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる「福祉文化の創造」の発信

(4)マスコミ、関係機関・団体への情報提供

9. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「かるた」の配布地域の開拓とともに「ご近所福祉」について、広く地域住民の意見を把握することに努める。

10. 関係機関・団体との協働・連携

- (1)「静岡県共同募金会」に、助成事業経過報告
- (2)「焼津福祉文化共創研究会」との連携（協働による諸活動の展開と、小地域福祉活動の連携による「近助」の取り組みの現場に学ぶ実践活動を県域に共有）
- (3)「静岡県コミュニティづくり推進協議会」との連携（「かるた」配布団体・グループ推薦と事業関連情報提供）
- (4)「日本福祉文化学会」及び「学会中部東海ブロック」への情報提供
- (5)「教育と福祉の融合」をもとに、「学校教育」や「社会教育」分野への情報提供を開拓
- (6)「静岡県ボランティア連絡協議会」との連絡調整及び情報提供
- (7)「ふじのくに未来財団」への情報提供
- (8)県内外の関連研究会等と「近助」に関する情報提供
- (9)福祉コミュニティ組織における実践的取り組みをしている地域の把握との情報交換
- (10)「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体・グループ等との日常（施設、NPO法人、Vグループ）
- (11)「静岡県社会福祉協議会及び市町社協」との連携（情報提供）
- (12)公益財団法人「あしたの日本を創る協会」への情報提供

(13) 公益財団法人「さわやか福祉財団」への情報提供

(14) 公益財団法人「愛恵福祉支援財団」への情報提供

■ 2024年度 「赤い羽根広域助成事業」全般の展開表

4月	●3/14 県共同募金広域福祉活動助成事業決定交付 3/28 説明会出席 ※(3/30) 本会委員会開催 1. 細部事業計画起案 2. 「第1回共創社会実現研究会」開催 (本会会員と地域で実践している実践活動者等) 3. 関係機関・団体への情報発信
5月	1. 活用状況調査実施 2. 「かるた」印刷に関する業者との協議 3. 「第2・3回共創社会実現研究会」開催 4. 関係機関・団体への情報発信 5. 関連研修会開催
6月	1. 「かるた」印刷発注 2. 活用状況調査実施(回収・取りまとめ) 3. かるた活用事例集編集協議 4. 関係機関・団体への情報発信 5. 「第4回共創社会実現研究会」開催
7月	1. 「第5回共創社会実現研究会」開催 2. 「若者発 近所福祉かるた」納品 3. 関係機関・団体への情報発信 4. 活用状況調査考察 5. かるた活用事例集編集作業 5. 関連研修会開催
8月	1. 「第6回共創社会実現研究会」開催 2. かるた活用事例集編集作業 3. 関係機関・団体への情報発信
9月	1. かるた活用事例集編集作業 2. 関係機関・団体への情報発信 3. 関連研修会開催
10月	1. かるた活用事例集編集作業 2. 関係機関・団体への情報発信
11月	1. かるた活用事例集納品 2. 関係機関・団体への情報発信 3. 関連研修会開催 4. かるた活用事例集公表
12月	1. 「かるた活用事例集」配布・発送作業 2. 「第8回共創社会実現研究会」開催(助成事業総括) 3. 関係機関・団体への情報発信
1月	1. 関係機関・団体への情報発信
2月	1. 報告研修会 開催 2. 関係機関・団体への情報発信 3. 赤い羽根事業感謝の報告
3月	1. 関係機関・団体への情報発信 2. 県共同募金会書類提出 3. 次年度活動計画作成(近所福祉検証事業継続)